

ずは本流の記録を1860年の日誌から抜粋して書き留と
めておきましょう。

まずはホーヌイ、アシネシユム。ここには人家が6軒
あり、続いてタツタラ、ヌタベトで、ここには人家が3軒、
その向こう側には幅18メートルほどの浦幌川の河口で、その水
源は足寄の南、釧路領の本別川上流から来ており、十勝
川第9の支流です。河口に人家が2軒あり、川を下つて
シチネイ、それに並んでオベツコハシ、ここに人家が9軒、
そこを過ぎてベツモシリという中州なかすがあり、アシやオギ
が生えています。左の方には人家が3軒あり、ここには
渡し舟がありました。この一帯を十勝村と呼び、幅およ

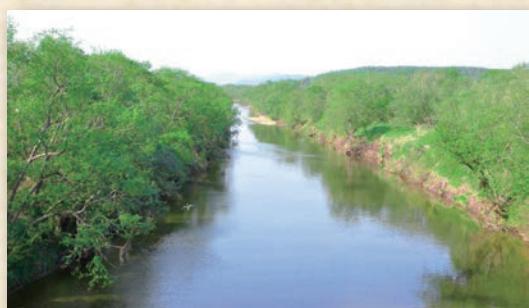
そ290メートルの海岸の河口になり、ベツチャ口からの距離きより
は6キロほどになります。

なお、今回の私たちはベツチャ口から右方向、大津川へ
と下りました。しばらく行くと、カンカン川、それから平
野があつてトンナイ川、ヲシヤリニ原、長臼おさうす、ここは網引
き場で、その少し上には人家が11軒ありました。ここを過
ぎて芦原のヲシリケシヤウシ、トシラエイ川、ウツナイチャ
ラ川があり、この流れはオホツナイの方に向かっていると
いうことです。ヘトアニ原、網引き場のタンネヤウシ、こ
こに人家が3軒、そしてベツチャ口から3.9キロほどでオホツ
ナイの河口に到着しました。



十勝発祥の地

オホツナイは明治3年に大津と改称され、北海道發展の中心地となつた。



浦幌川

浦幌町の中央を流れる川。浦幌十勝川に合流して太平洋へと流れる。